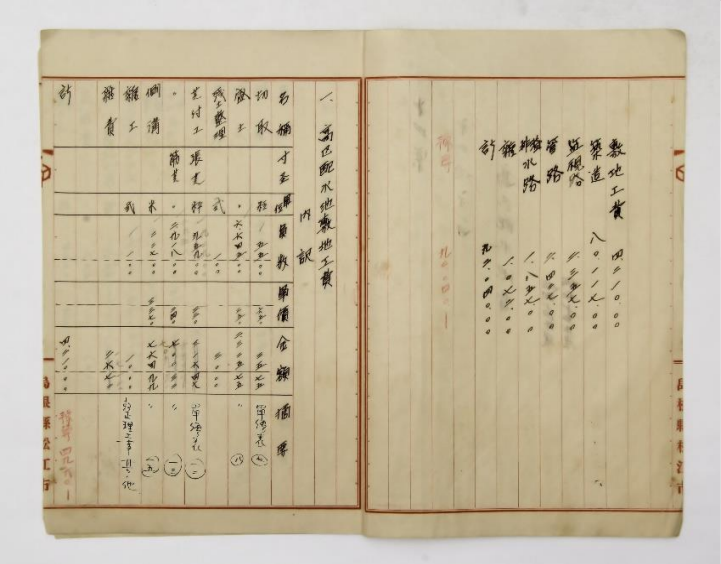

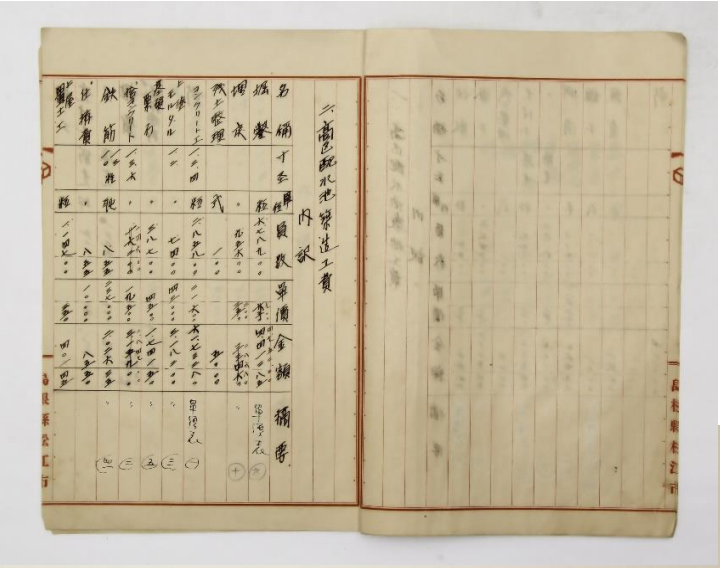

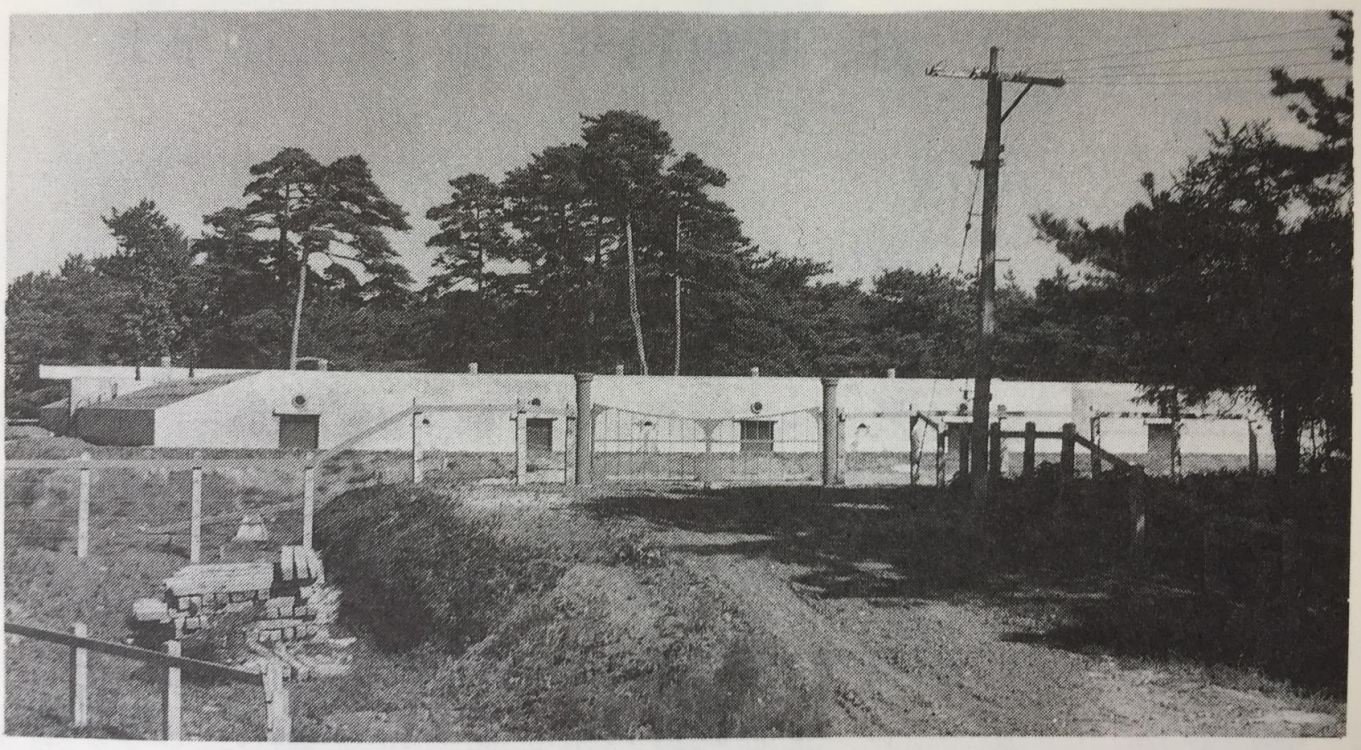

檜山高区配水池の全景

「檜山高区配水池築造工事（第4次拡張事業）」昭和14年（1939年）～

当初、5万人に対する給水を計画し敷設した本市の水道は、急増をつづける人口（昭和14年・56,346人）と支那事変勃発（同12年7月）に対応する傷痍軍人療養所の設置などにより需給関係は逼迫。このため、市は工費約255,000円を計上し同14年9月4日、内務省に「水道拡張工事の施行と給水区域の拡張認可」を申請。同年11月20日、その許可を受ける。

目論見書における趣意書は、「高区配水池は、八束郡乃木村大字高原及び松江市西津田檜山山頂の平地に築造。ポンプ場を市内雑賀町・床几山既設配水場内に新設すれば、24年の給水人口を60,000人に想定しても十分に対応できる」とした。

檜山高区配水池（2池）：各池内長22.61m、内幅18.5m、水深5.0m（有効水深4.5m）、有効貯水量3,456㎥、満水位標高65.0m。